

ボランティア

女性教育情報センターだより

2023.12.1 発行 国立女性教育会館情報ボランティア

No.98

テーマ
展示

今、家事を考える

～協力し合う家事シェア～（令和6年1～3月）

日本は家事関連時間の男女差が国際的にみても大きく、家事の負担が女性に偏っている。負担の大きさが仕事との両立の困難や、生活満足度の低下につながっており、共働き世帯の増加により、男性の家事等への参画を進めていくことが一層重要となっている。家事や家庭内の男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスに関する資料を展示する。

展示資料の一部



孫詩彥著
明石書店 2022



大澤和美著
CCCメディアハウス
2014



山口祐加・星野概念著
晶文社 2023



チョン・アウン著
生田美保訳
DU BOOKS 2023



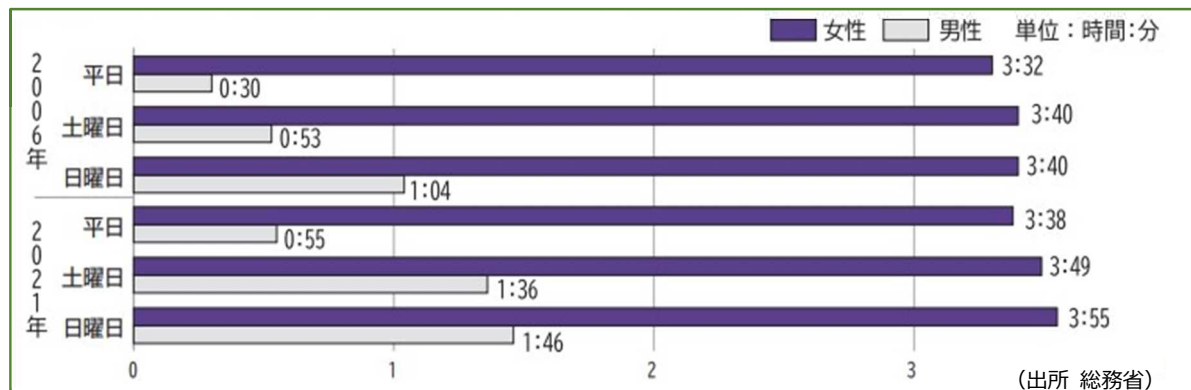
阿古真理著
垂紀書房 2022

3ページに感想文があります。

統計に見る家事関連時間の男女差

1. 家事関連時間の男女差は倍以上 特に平日が大きい。

「国立女性教育会館男女共同参画統計リーフレット2023」より



<https://www.nwec.go.jp/research/cb4rt20000001kqy-att/statisticsjp2023.pdf>

2. 共働き世帯の家事関連時間の推移（2006年～2021年）

一週全体平均、6歳未満の子供を持つ夫婦と子供の世帯

(単位 時.分)

右表は共働き世帯のデータのみを抽出して掲げたものである。家事時間だけを比較すると（育児や買い物を除く）夫が家事に費やす時間は15年前に比較して約2倍にふえているものの、妻の4分の1以下であることがわかる。



		共働き世帯			
		2006年	2011年	2016年	2021年
夫	家事関連	0.59	1.10	1.24	1.55
	家事	0.14	0.15	0.21	0.34
	介護・看護	0.01	0.00	0.01	0.01
	育児	0.30	0.40	0.48	1.03
	買い物	0.14	0.15	0.14	0.17
妻	家事関連	5.37	6.08	6.10	6.33
	家事	2.53	2.58	2.42	2.37
	介護・看護	0.04	0.03	0.07	0.03
	育児	2.08	2.32	2.49	3.24
	買い物	0.32	0.35	0.32	0.29

<https://www.stat.go.jp/info/today/pdf/190.pdf> (総務省 統計Today No.190)

すべての世代の男性の家事・育児・介護等への参加が重要！ ～第5次男女共同参画基本計画より～

令和5年度に策定された第5次男女共同参画基本計画においては、「女性も男性も働きたい人全てが、仕事と子育て・介護・社会活動等を含む生活との二者択一を迫られることなく働き続け、職業能力開発やキャリア形成の機会を得ながらその能力を十分に発揮することが重要である」とし、そのための方策を挙げている。さらに、「男性片働き世帯が多い時代に形成された、長時間労働や転勤等を当然視するいわゆる『男性中心型労働慣行』や固定的な性別役割分担意識を背景に、家事・育児・介護等の多くを女性が担っている実態があり、その結果、女性が働く場において活躍することが困難になる場合が多い。一方、介護を例にとると、男性は、家事に不慣れ等の状況や、地域とのつながりが乏しい中で孤立した介護生活となっている場合もある。このため、全ての世代の男性が家事・育児・介護等に参画し、地域との関わりを持つことが可能となる環境の整備を推進する必要がある」と述べ、性別役割分担意識の改革や男性の家事参画のための環境整備の必要性にも言及している。

第5次男女共同参画基本計画 第2分野 雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和
https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/5th/pdf/2-02.pdf

令和モデル、
いいね！



今こそ、固定的性別役割分担を前提とした長時間労働等の慣行を見直し、「男性は仕事」「女性は家庭」の「昭和モデル」から、**全ての人**が希望に応じて、家庭でも仕事でも活躍できる社会、「令和モデル」に切り替える時である。

令和5年版男女共同参画白書<概要>より
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r05/gaiyou/pdf/r05_gaiyou.pdf



「家事は大変って気づきましたか？」

阿古真理著 亜起書房 2022.10

男女の家事労働時間は、圧倒的に女性に偏っている。既婚女性の多数が働き便利な家電が普及し、ジェンダー平等意識が高まっている時代になっても、その差が大きく縮まらないのはなぜだろう。

本書を読むと、高度経済成長期に「近代家族」と呼ばれるかたちが作られていったことと関わるのがわかる。夫は外で働き、妻は家事やケアを一手に引き受け家を守る「近代家族」は、性別役割分担を根付かせた。多くの女性が社会の働き手となった今も、その意識は世代を超えて引き継がれている。男女間の賃金格差や社会保障制度の変革も、「近代家族」を支えるのに加担している。私の周囲にも、夫の扶養控除の範囲内だと、働く時間を制限している女性が多い。



性別役割分担意識は、家事を愛情とセットで女性に迫ってくるのが多々あり、女性自身が入り込まれてしまう。または、家事をシェアするのが面倒で自分がやったほうが速いと決めつけ一人で抱え込む。こうした事態は女性にとって不幸だが、家族にとっても、家事から遠ざけられ家事に関わるチャンスを奪われていると、著者は指摘する。

経済活動とは相いれないと軽視されてきた家事やケアだが、これなしでは誰一人生存できない。家事は、暮らしそのもの、生きる大切な時間だから家族で取り戻そう。それには、「手伝う」ではなく、同等に当事者意識を持つことがまず大切だという。

[tk]

女性アーカイブセンター所蔵展示 「働く女性のあゆみ展」

2024年3月10日まで

女性アーカイブセンターでは、当館所蔵資料を紹介する所蔵展示と、さまざまなテーマで他の機関と連携して実施する企画展示を行っている。昨年度、「女性と仕事の未来館」(2000～2011年)旧蔵の報告書、パンフレット、ポスター等、約4500点に及ぶ資料の寄贈を受けた。こちらから、婦人週間のポスターやリーフレットなどの行政資料を中心に、戦後から現在までの働く女性のあゆみをたどる所蔵展示を開催している。スペースシャトルに2回搭乗した向井千秋さんの資料コーナーには、2回目の搭乗の際、持参した女性週間の旗も展示されている。 [情報課]



「図書館総合展 2023」

10月24～25日、4年ぶりにパシフィコ横浜にて会場開催となった「図書館総合展 2023」に出展し、ジェンダー問題に関する専門図書館「NWEC 女性教育情報センター」の魅力を紹介した。

11月15日まで開催されたオンライン展示にも出展した。

<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/154>



「図書館と県民のつどい埼玉 2023」

所蔵資料の展示や特徴ある図書館活動を紹介します。

12月10日(日) 10:00～16:00

桶川市民ホール・さいたま文学館

詳細はこちら <https://www.sailib.net/tudoi2023/>

☆活字文化を支える団体が協力して開催する
県内最大の図書館イベント

[レイアウト: co]

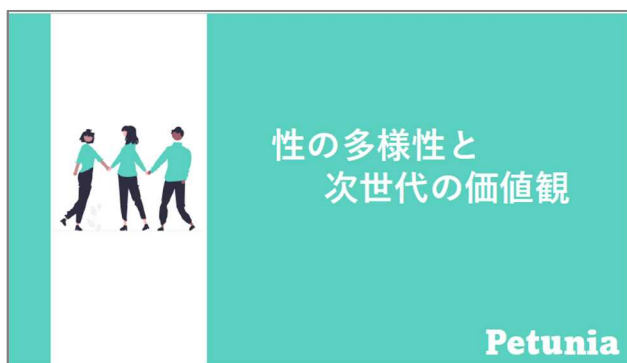
高校生が挑むジェンダー課題「性の多様性」

筑波大学附属坂戸高校（筑坂、埼玉県坂戸市）では、総合的な探究活動である T-GAP（Tsukusaka Global Action Program）が 2 年生の必修科目となっており、生徒自らが社会課題を設定し、解決に向けたアクションをチームで考え、実行している。

NWEC ボランティアの取材チームは、昨年度の <HUG> に続き*、今年度は <Petunia> <liefde> の 2 つのチームに注目し、それぞれの活動を追った。 [af]

* 「ボランティア女性教育情報センターだより」 96 号と 97 号に記事掲載

https://nwec.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=-custom_sort&search_type=2&q=178



Petunia は、性の多様性への理解不足により生きづらさを抱えている人々がいる現状を憂慮し、まず自分たちの世代が正しい知識を持つことにより、次の世代の理解が広がり、みんなが生きやすい社会になっていくと考えている。では、正しい知識を持つためには？



学校で性の多様性について学ぶ機会が欲しい。しかし、教える側の教員の知識不足や関心の低さが課題。そこで…



- アクション 1 筑坂の教員を対象に、ワークショップを実施
- アクション 2 教員が性教育授業で使える資料として“教育シート”を作成

チーム名は「心のやすらぎ」を花言葉とする花の名前から



Petunia 紹介



こころ、れん、ももか、ぬん、ここな、なお



liefde は、LGBTQ や同性婚、男女共同参画についての興味・関心からスタートし、社会に存在する同性婚への偏見をなくすことを活動目標として定めた。そのためには、性的マイノリティへの理解を広めることが必要である、と考え、情報発信にも取り組むことになった。

若年代の正しい知識が、将来的に社会の中の偏見・差別を減らす



同性婚が法的にも認められ、誰もが生きやすい社会が実現する

- アクション 1 パートナーシップ制度導入の要望書提出（未導入の自治体に対し）
- アクション 2 啓発パンフレットの作成（坂戸市勤労女性センターからの依頼）

チーム名は世界で最初(2001年4月)に同性婚が認められた国、オランダの言葉で「愛」という意味

liefde 紹介



橋本、根本、鈴木、森、白井、松本



◇Petunia チームの教員向けワークショップ

11名の筑坂の先生方を対象に8月28日に実施されたワークショップを見学した。まずメンバーからこれまでの調査結果の報告と課題解決のためのアクションプランについて説明があったが、その洞察力と分析の確かさに感銘を受けた。続いて先生方を小グループに分け、クイズ形式で「アライ」などの用語についてセッションが行われた。先生方は熱心に、とても楽しそうに参加され、また生徒へのリスペクトが感じられたのが印象的だった。[感想: yk]



なおPetuniaチームは、海外からの参加校を交えて11月11日にオンラインで実施の「**第12回高校生国際ESDシンポジウム**」(主催: 筑坂)で、今年度のT-GAP 32チームを代表して発表を行った。

ESD=Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育

◇liefdeチーム「高校生SDGsコンテスト」決勝大会出場!

“SDGsで考える「変えたいこと」「いま動いていること”をテーマに実施された今年の同コンテスト(主催: 日本経済新聞社)の決勝大会が、9月16日、オンラインで実施された。

liefdeの6名は、予選を見事勝ち抜いた全国10チームのひとつとして、同性婚やパートナーシップ制度について、取材結果やデータを交えながら現状と課題を提示し、性の多様性の正しい知識の発信が、SDGsの目標5, 10, 16の達成に貢献し、持続可能な社会の実現につながることを訴えた。

▷日経チャンネルでアーカイブ配信中 <https://channel.nikkei.co.jp/202309students/>

～liefdeメンバーの感想～



不特定多数の外部の聞き手を対象に制限時間内で発表するのは緊張したが良い経験だった。



当日までパワポ作成や発表練習などが大変だった。だが、練習中にチーム内で励まし合い絆を深めることができた。



〔他校の発表について〕プレゼンの仕方に多様な工夫が施されているように感じた。

活動は拡大!

- Petuniaによる“教育シート”は自校の枠を超え、坂戸市役所内に置かれることになった。
- liefdeが作成中の“啓発パンフレット”は、坂戸市内の中学生に配布される予定とのことだ。メンバーが目ざした正しい理解の促進は確実にカタチとなっていく。続きは次号99号で。

令和5年度 男女共同参画推進フォーラム NWE Cフォーラム2023

11月15日 9:00 ~ 12月21日 17:00 オンライン開催/参加費無料

特設サイト ⇒ <https://eventbase.cloud/nwecforum2023>

「NWE Cボランティアの会」出展企画

多世代ワールドカフェ ver.2: 若い世代と共に考えるジェンダー課題 「性の多様性」



日時: 12月17日(日) 9:30-12:00

場所: Zoom

申込み: <https://forms.gle/4afan6A2NdL66Qi6A>

締切: 12月15日(金)

問合せ: nwec2022@yahoo.co.jp

筑波大学附属坂戸高校「Petunia」、「liefde」チームが探究活動のなかで取り組んだ「性の多様性」を巡るジェンダー課題について多世代の参加者に問いかけます

昨年大好評!

学生
チームが
プレゼン
します



知らないなんてもったいない！ ジェンダー情報の調べ方 サマーセミナー 初開催

ジェンダーに関するレポート・論文を書きたいと考えている大学生・大学院生を対象とした対面での研修が9月7～8日、NWECで開催された。これはジェンダー平等の推進を担う次世代の若者の研究や学習の支援を目的とした企画で、各地から参加した24名が、萩原なつ子理事長などのチューターや職員のサポートのもと、文献・情報の探し方を学んだ他、テーマ相談会や交流会に臨んだ。2日目には各自がワークシートを作成し発表を行った。 [af]



↓施設見学



↑テーマ相談会

←レポートの書き方についての講義

ジェンダーを話せる場所の貴重さ～サマーセミナー感想にかえて

サマーセミナーに参加してみて、特に印象に残ったことは情報収集によるテーマ相談会とセミナー参加者による交流会でした。テーマ相談会では学部生から博士課程に在籍している方までそれぞれの関心・研究分野を先生方に相談することで、自分とは違う関心や、そこに目をつけるのかという研究対象を知る新鮮さもありました。また、交流会では、ジェンダーに関わるパーソナルなことから政治を含むマクロなことまで、打ち解けて話せたと思います。ある参加者の「大学でも、こんなに安心してジェンダーについて話せたことはなかった」という一言にハッとしました。共学か女子大かに限らずジェンダー関連の話に本腰を入れて話すことができる環境は貴重なのだと思いました。実際、大学生という「若者」の集団だからといって、皆ジェンダーについて関心があるわけではなく、むしろ大学においてもステレオタイプ化されたジェンダー規範が支配的であることも少なくありません。そのようなことを踏まえると、セミナーによってコミュニティとしての繋がりができたのは大きかったのかもしれない。対面開催の一番の強みは、隣りに座っている人に声をかけ、話ができることだと思います。その時間を十分に取れたことが今回のセミナーが実りあるものになった一番の証拠だと思いました。また、NWECのある地元に住んでいる私からすると、女性教育情報センターの資料に触れることは日常と化していましたが、セミナー参加者の皆さんが同センターの所蔵資料の充実ぶりに感動しているところを見るに、その「日常」の貴重さを実感できたように思いました。

Sho (大学3年、NWECボランティア)

編集後記

- ・手抜きテクニックには自信のある家事嫌いの私です (yk)
- ・シン時代、家事も介護も共倒れ防止に合理的改革を！ (yh)
- ・脈々と続く性別役割分担の呪縛が解けるのはいつ？ (co)
- ・ひとりじめスイーツと『御子柴礼司シリーズ』にハマっています (sm)
- ・金子みすゞの童謡集を読み返したい (af)
- ・性別に関係なく、家事やケアに配慮する企業が増えてほしい (tk)

今号の内容

- ☆今、家事を考える
- ☆読んでみました
- ☆情報課イベント
- ☆高校生が挑むジェンダー課題
- ☆NWECフォーラム 2023
- ☆サマーセミナー